

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立多治見北高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和5年5月22日(月) 14:00~16:00
- 3 開催場所 岐阜県立多治見北高等学校小会議室
- 4 参加者

会長	小林 雄一	愛知工業大学教授
副会長	水野 知久	東濃子ども相談センター所長
委員	長壁 和恵	会社員 元PTA役員
	加藤 恵子	消費生活協同組合理事 元PTA役員
	宮嶋 浩	バロー文化ホール館長
	則武 寿恵	PTA副会長
学校側	白石 秀史	校長
	山下 サツキ	事務部長
	西田 智子	教頭
	市川 学	教務主任
	加藤 大	生徒指導主事
	前川 泰信	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 出席者自己紹介、日程説明
- (3) 授業見学・校内視察
- (4) 学校運営協議会の設立趣旨説明
- (5) 会長、副会長の選出
- (6) 今年度の学校運営について
- (7) 今年度の取組について
- (8) 意見交換及び協議

意見1：授業見学では、タブレット端末を使って教材を共有し、工夫した授業が行われていた。先生によって進め方は異なっても、統一したレベルでの授業となっていた。先生と生徒がコミュニケーションをとり、生徒をのせながら授業が進められていた。

意見2：生徒指導部から説明のあったスクール相談員について教えてほしい。

⇒本年度よりスクール相談員が配置され教育相談室に常駐している。午前中は教室に入りづらい場合の一時的な学習支援の場として、午後は個別相談の場として教育相談室を活用し、スクール相談員が生徒の支援や相談業務にあたっている。

意見3：多治見北高校でのつながりは高校卒業後も大切で、就職活動の折などに高校時代の友人や先輩が相談に乗ってくれたりアドバイスをしてくれたりして支えになったと、卒業生が語っていた。こうしたつながりをこの先も大切にしてほしい。

意見4：生徒の勉強している姿勢がよいと感じた。多治見北高校の卒業生は、大学時代などと比べても、高校時代が一番勉強したと言っている。この学校でよい時期を過ごしている生徒をうらやましく思う。

意見5：自分が多治見北高校に在学していた頃も様々な学校行事を生徒主体でやってきた。そうした経験が現在のキャリアや生き方も大きくつながっている。コロナ禍により中止となったイベントもあり、先輩の姿を見て自分たちが来年どうやるのかという引き継ぎができず、大変なこともあるかもしれないが、よいところは受け継ぎ、新しくすべきところは新しくして、頑張ってもらいたい。

意見6：退学した生徒はいるのか。

⇒退学する生徒はほとんどいないが、昨年度は一昨年度に比して転学者数が増えた。転学先は全て通信制高校であった。近年、中学校卒業と同時に通信制高校へ入学する生徒も多く、学校への行きづらさを感じた場合の学びの場として、通信制高校という選択肢が選びやすくなっているように感じる。

意見7：遅刻の数が増えているが、学校への行きづらさを感じる生徒との因果関係はあるか。

⇒いわゆる駆け込み登校など、時間にルーズなことに起因する遅刻はほとんどなく、遅刻者の大半は体調不良や、学校への行きづらさを感じていることを理由としており、相関関係はあると考える。

意見8：コロナ禍においては、社会全体が「少しでも体調不良を感じたら休む」ことを是としてきた。こうした経験により、大学や社会でも「無理をしない」習慣がついており、高校生も同じかもしれない。世の中全体で従来の当たり前が崩れており、様々な面において、状況が落ち着くまでには時間がかかると思われる。

(9) 会長挨拶

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。